

連辞 *par contre* と *en revanche* について

田代 雅幸
(筑波大学大学院)

本発表は、連辞 *par contre* と *en revanche* の意味論的な違いと、それぞれに共通する意味構造について考察を行うものである。このふたつの連辞は、共に前後の発話の差異を問題とする対立の連辞であり、同じカテゴリーに属す連辞としては他に *au contraire* や *loin de là* があげられる。対立の連辞の生起する環境の意味構造にはテーマの対立と視点の対立とがあるが、*par contre* と *en revanche* は共にもっぱら(1)(2)のようなテーマの対立をマークする表現であり、その点において、(3)のような視点の対立をマークしうる *au contraire* (、あるいは *loin de là*) と異なっている。つまり、*par contre* 及び *en revanche* と他の対立の連辞の間には、生起環境の意味構造に違いが見られるのである。

- (1) Si le jardin se trouvait à l'ombre, la maison, *par contre*, était en plein soleil.
(Maupassant, *Les Dimanches d'un bourgeois de Paris*, Paris, 1880, cité par Trésor de la Langue Française informatisé)
- (2) Ce qui lui manque [à Couture], je crois qu'il ne l'acquerra jamais. *En revanche*, il est bien maître de ce qu'il sait. (Delacroix, *Journal*, 1847, p. 225, cité par *ibid.*).
- (3) Jean n'est pas fatigué, *au contraire*, il est en pleine forme. (『小学館ロベール大辞典』初版, 小学館, p. 558)

しかし、共にテーマの差異をマークする *par contre* と *en revanche* の違いを明らかにするためには、生起環境の意味構造ではなくそれぞれの意味論的な分析を行う必要がある。本発表では、*par contre* と *en revanche* の意味論的分析の困難さを明らかにしたのち、このふたつの連辞が生起する環境において常に2テーマ2レーマの意味構造が存在していることを主張する。